

エジプト産ファラオ天然薬物:コロシント(*Citrullus colocynthis*, 果実)の
新規クルビタン型トリテルペン配糖体成分と生物活性
森川 敏生¹, ○小林 央典¹, 松田 久司¹, 吉川 雅之¹(¹京都薬大)

【目的】ウリ科(Cucurbitaceae)植物コロシント(*Citrullus colocynthis*)は、アフリカ北部からインド北西部の砂漠地帯に自生し、その果肉部は“Colocynth pulp”と称され、エジプト伝統薬物として慢性の便秘症などに用いられている。今回我々は、エジプト伝統薬物の科学的解明研究の一環として、*C. colocynthis* 果実のメタノール抽出エキスについて、生物活性成分の探索研究に着手した。

【方法・結果】*C. colocynthis* 果実のメタノール抽出エキスを溶媒分画後、順相シリカゲル、逆相 ODS カラムクロマトグラフィー及び HPLC を用いて繰り返し分離精製した結果、3 種のフラボノイド配糖体、6 種のトリテルペン配糖体および 4 種の芳香族化合物などを単離、同定するとともに、2 種の新規クルビタン型トリテルペン配糖体 (**1**, **2**)を単離、構造決定した。これらの新規サポニンの構造は、NMR をはじめとした各種物理化学データの詳細な解析および酸加水分解などの化学的手法の結果から決定した。また、メタノール抽出エキスおよび含有成分について、生物活性評価を実施した結果についてもあわせて報告する。

